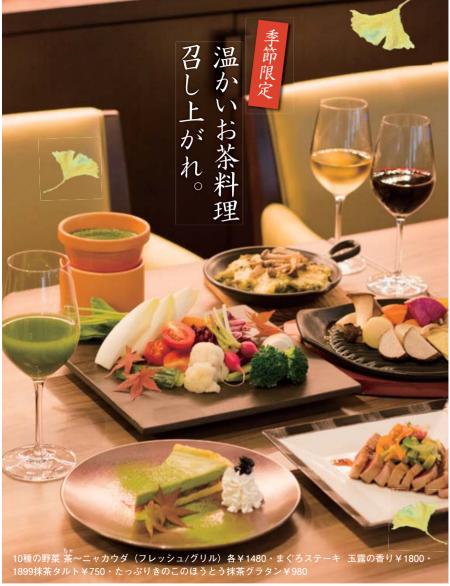


In the mood for chicken!





GREEN TEA RESTAURANT 1899 OCHANOMIZU

101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-4 TEL 03-3251-1150 FAX 03-3251-0270 http://1899.jp/

In the mood for chicken!



おなかが空いた。気分はチキン。

迷った末に初めて試すこの一品。

漂う香りに期待わくわく。

食べる前から、もうすっかり鶏料理のとりこ。

Text Daisuke Furuya Photo Chie Maruyama

愛され歴二十年の実直・絶品親子丼

噛んでいて感じられるのはぷりぷりとしたフレッシュな繊維質、そんな弾力のあるお肉。 秘伝の鶏がらのおだしもよくしみている。それにまた玉子が半熟でふわふわとろり、ご飯と一緒に頬張れば口の中いっぱいに広がるまろやかな味わい。ありがたき一杯のしあわせ…神田駅・西口商店街の一角に店を構え約二十年の焼鳥専門店「伊勢ろく」自慢の親子丼は、優しく包み込むような美味しさにあふれている。それでいてお値段はなんとたったの税込730円(テイクアウトなら学生限定で550円)。聞いて驚き、である。



お店が面する神田駅西口通りの様子。



ここでは、こだわりの銘柄「伊達鶏」を毎朝まるまる一羽ごと仕入れて捌く。串に肉を刺しこむ仕込み作業が夕方までかかる中、「鮮度が命の鶏肉なのだから、その良さをもっと活かしたい」と、開店後ほどなくして、ランチで親子丼を始めた。

そのクオリティと値段がもっぱらの評判となり、今ではすっかり店の看板メニューに。たくさんのサラリーマンやOLが日夜働く立地柄、平日12時から13時というお昼どきのゴールデンタイムともなれば、この親子丼に魅せられたオフィスワーカーや学生らが群がり、しばしお店は満員状態。この間だけで100杯を超える親子丼が売れるという。



In the mood for chicken!

そんなせわしないお昼の調理場を主に担当するのは、店長の林徳明さん。熟練の腕で一度に6杯もの親子丼を同時に調理、時間差で次々に仕上げ、たくさんのお客さんからの「あの親子丼が食べたい!」気持ちに応えてみせる。

飲食店を営む家に生まれ育ち、ごくごく自然に食や料理の道を歩んできた林さん。忙しいはずなのに、どこか余裕があり、落ち着きを感じさせる。「親子丼を鍋にふたをして作らないのも、焼き鳥を炭火焼きでは出さないのも、繊細な鶏肉の味を大切にしているから。肉本来の美味しさをなるべく生かすことは、このお店が始

まって以来ずっと大切にしているポリシーのようなものですね」。ひょうひょうとして快活なその声のトーン。聞けば八百屋に勤めていた経験もあるとのこと。

昼はカジュアルでにぎにぎしくても、夜は じっくり腰を据えて焼き鶏に舌鼓を打つ。客 のそんな姿に、神田らしい粋を感じることも あるという。「以前新宿や池袋で働いていたの もあってそこと比較して感じるんですが、神 田は紳士・淑女の方が多いんです。」その素敵 な立ち居振舞いを見やりつつ、林さんは今日 も腕を振るう。





神田 伊勢ろく本店

千代田区内神田2-12-3 ☎ 03-5294-7120

園 昼営業 11:00 ~ 14:30 夜営業 17:30 ~ 22:30

休 日・祝 ※土曜は昼営業のみ

ハイナンジーファン

その場の雰囲気すら美味しい、情熱仕込みの海南鶏飯



丸ノ内線淡路町駅の南側、オフィスビルが 林立するエリア。日々仕事に精を出すワーカー たちがお昼のエネルギーチャージに、またア フターファイブをエンジョイしに立ち寄る飲 食系スポットも、目抜き通り・路地を問わず 点在する。そんな街をそぞろ歩いていてふと 目に入ったのは、スケッチ画みたいにラフな線 描で描かれた怒れる一羽のにわとり(のイラストの看板)。

でく日常的な風景の中、そこはかとなく異彩を放つこの看板のお店こそは、シンガポールビストロ「松記鶏飯 (SONG KEE JEE FAN)」。2013年のオープン以来、現地顔負けの本格的な味で数多くのファンを獲得してきた。チキンライスを筆頭に様々なシンガポール料理、ワインなど各種こだわりのお酒で、現地の屋台にいるかのような味と活気に浸れる場所だ。

定番料理のチキンライス、またの名を海南鶏飯(ハイナンジーファン)。華僑系の住民が持ち込んだのがそのルーツという。じっくり時間をかけてゆでた鶏肉、そのゆで汁で炊きこんだしっとりライス、そしてコクの効いた鶏ガラスープ。鶏肉とで飯の味付けには、しょうが汁・チリソース・濃い口甘めのどろりとした醤油の計3種が。これらをお好みで混ぜて、チキンやで飯にかけていただく。混ぜるバランス次第でその味も大きく変わる分、自分好みの味覚を探っていく楽しさがある。



In the mood for chicken!









店主としてこの店を育ててきた松本裕介さんは、大学時代のバッグパッカー経験など世界を旅する中でアジア、それもシンガポール料理の美味しさに目覚めた。十年住み慣れた六本木ではなく神田の地を選んだのは「既に似たお店もあって無用に流行り廃りが激しい所よりも、これから色をつけていけそうなここに可能性を感じて」のこと。「大手町からは会社の規模も大きくシンガポール駐在経験のある商社マンが、神保町や御茶ノ水方面からもそちら系の出版社の人や趣味人に来てもらえる。シンガポール料理やその雰囲気を知る人・好きな人が集うハブにしたいですね」(ちなみに店名

の「松」の字は「松」本さんの名字から。通なら ピンとくるネーミングらしい)。

「食の研究旅行」と称して現地を訪ねた成果が メニューに反映されるのもしばしば。「これはと 思った店には何度も通ったり。好奇心が尽きま せん」。松本さんのパッションは当分収まりそう にない。

松記鶏飯 (SONG KEE JEE FAN)

千代田区神田司町2-15-1パレヤソジマ102 203-5577-6883

置 昼営業 11:30 ~ 14:00 (LO 13:30) 夜営業 18:00 ~ 23:00 (LO 22:00)

休 日·祝

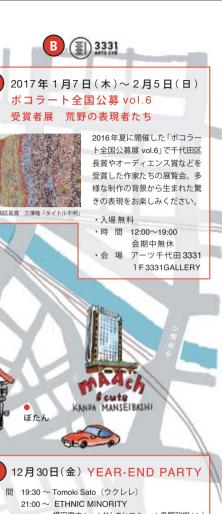


グリーンパッタイ

鶏ポタラーメン THANK

お茶の水







19:30 ~ LIVE PAINTING: 高松徳男

・場 所 ワテラスタワー 2F cafe 104.5

入場無料





illustration Mougi Kazuya

セレクトしました。

● 天鶏

KHOCK; KNOCK;

マーチエキュート神田万世橋



今号からスタートする、神田の建築物を訪ねるこのコーナー。まちづくり関連の建築実績も豊富な設計事務所、オンデザインパートナーズの方々が登場し、毎号その独自の視点から建物に感じる魅力を語って頂く。第 1 回目は、同社代表、西田司(にしだおさむ) さん。旧万世橋駅をリノベーションして2013年にオープンした商業施設「マーチエキュート神田万世橋」を訪れた。

「秋葉原、御茶ノ水、神保町、神田駅周辺といった神田エリア一帯を構成する個性豊かな街々のはざまにあり、一種の「空白地帯」と見なされていた、そんな場所に近年登場したわけですよね。 『周辺エリア活性型商業施設』と銘打っているだけあって、人が行き交いにぎわう「みんなの場所」として機能しているように思われます。かつて は日常的に人が集う万世橋「駅」が、その後は 交通「博物館」となり、やがてそれさえも無く なるという過程で人の姿も少なくなっていった 時代背景を思うと、なおさら素敵です」

1 階を歩いていて気がつくのは店舗と店舗を仕切るアーチの存在。「アーチで仕切られた空間の数々を通り抜けていくことの身体感覚的な魅力。今自分がいる空間の先のアーチを通り抜けるとまた別の空間があり、さらにその先のアーチを超えてもまた別の空間があるという。雑貨店、飲食店、イベントスペースなど個々の空間でとに目に入るものも匂いも異なり、様々な店舗がつながっているそのど真ん中を横断していける。窓に映る川辺の風景も自分の歩みにシンクロして変化する。お店のウィンドウをはたから眺めて歩く普通のショッピングとは全然違いますよね」

天井部分(これも大きなアーチ)にも着目。本来ここに取り付けられるはずの照明設備はなく、明かりは商品にほど近い位置に据え付けられた間接照明のみで、天井はひたすら大きなグレーの広がりを呈している。館の方に聞けば「耐震補強上の制約から天井に明かりがつけられない中、光が柔らかいものになるように全体の環境を演出した」とのことだが、西田さん曰く「この広い余白、それにアーチのカーブが、様々な人や物が混在しても受け止められる寛容さと一体感を与えていますね」

2 階では中央・総武線が駆け抜ける様子を間 近で楽しめる。その距離の近さには、電車好き でなくとも皮膚感覚的にワクワク。「現代は電 車利用が当たり前すぎて忘れてしまっています が、この場所に来ると当時の万世橋駅が持って いた『電車に乗って、ここから出かける』非日 常感を呼び起こすものがあります」

知ってますます味わい深いマーチエキュート 神田万世橋。もう一度行きたくなった、でしょ?











神田が誇る優美な街の玄関口、龍名館



独特の美しさを誇る和洋折衷仕様のゲストルーム。障子に見られる意匠はホテル内の様々なところに登場する。



コンシェルジュの田渕さん。各部屋のこだわりひとつひとつを で解説いただいた。



ワテラススチューデントハウスに暮らす学生が、神田周辺の魅力を内外に発信するコーナー。今回は、明治 32 年創業の老舗「ホテル龍名館お茶の水本店」を訪問、100 年以上にわたって国内外の旅人を神田の地に迎えいれてきたその姿を取材しました。

新御茶/水駅から徒歩およそ三分、辺りのビル群の中でひときわ映えるのれんをくぐりホテルに入ると、そこには別世界のような空間が広がっています。まず気が付くのがその優しく雅なお香の香り。案内して頂いたコンシェルジュの田渕さんいわく「ホテルでは五感で安らぎを感じてほしいから」とのこと。心が自ずと落ち着きます。

利用客が宿泊するゲストルームに入ると、そこでも様々なデザイン的趣向が凝らされています。 畳や陶器風呂、障子などの和の要素、そしてベッドやソファといったモダンな洋の要素が美しく融合した和洋折衷のデザインです。初めて見るのに懐かしさを覚えるような、そんなこのホテルならではのくつろぎの空間が広がっています。 Text ワテラススチューデントハウス

関 大輔(東京大学文科-類2年)

Photo Chie Maruvama

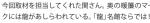
SPEAK DUT!



ライブラリールームには、選書家が神保町をイメージしてセレクト した本の数々。

龍名館を訪れる宿泊客の6割近くは観光やビジネス目的で日本を訪れる外国人とのことです。田 測さんほかコンシェルジュの方は、そんなゲストからの「おいしいそばが食べたい」「こんな散歩がしたい」といった様々なリクエストに対し、その豊富な知識で的確にこの街を案内しているそうで、いわば「海外の訪問者と神田の街をつなぐパイプ」としての役割を担っているようです。多くの外国人の方が、龍名館を訪れたことを機に神田の街を知り、古本屋街などの風情あふれるその街並みに心を打たれるといいます。

明治以来、時代を越えて神田の一つの玄関口として数多くの旅人たちに安らぎを与えてきた龍名館。長旅の高揚感や緊張感を優しく包み込むそのオーラは、この街にとってとても大切な財産であるように感じられました。





ゲストルームの茶器。静謐で美しい。



廊下の一角には、江戸時代の古地図が壁面に広がっている。



WE ARE AAM!

小中学生を対象にしたロボット開発の 体験ワークショップを定期開催中!



ルンバや Pepper など、「ロボット」はすっか り身近な存在となりました。ワテラスコモン では、子ども達にロボットをつくる体験機会 を提供し、興味や学習意欲を醸成するプロ ジェクトがスタートしています。

「お茶の水口ボットクラブ」では、毎月2つの コーナーを提供。

1.タッチ&トライコーナー・・・未経験者の小・中

学生を対象に、親子でロボットプログラミ ングを体験。

2. レベルアップ講習会&練習会コーナー・・・ 経験者を対象に、ロボットの機構や制御を 学ぶ講習会加えて、世界50ヶ国以上が参 加する国際ロボコン WRO (World Robot Olympiad) に参加するチャンスも。ぜひ一 度参加してみてください!





お茶の水 ロボット

「お茶の水口ボットクラブ」今年度の開催日程

2017年1月15日(日) 2月26日(日) 3月26日(日) *4月以降は日程調整中

*WRO Japan 東京地区予選会は、7/23(日) 開催予定。

*今後の詳しいイベント情報はワテラスHP(http://www.waterras.com)をご覧ください。

会場: ワテラスコモン 1F サロン

問合せ: NPO 法人 SESSAME 03-5643-5167 (平日 10:00~17:00)

主 催: NPO法人組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会 (SESSAME)

一般社団法人淡路エリアマネジメント

協 替: 第一字業株式会社 協 力: 四谷大塚お茶の水校舎、安田不動産株式会社

AAMでは賛助会員を募集中です。今後も地域交流を盛り上げる様々な機会を提供していきますので、 応援よろしくお願いいたします。

贊助会員の企業様 ●一般社団法人 千代田区観光協会 ●株式会社 龍名館 ●第一実業株式会社

伝説の「アンプレス」とともに 香り立つ、神田の思い出



◆カテゴリ ―人で 友達と一緒 グルメ ♀ エリア 小川町駅 ♪ ライター FREE AWAJI BOOK



100年近く続く老舗が軒を連ねる神田・ 須田町。この街で昭和8(1933)年から営 業しているのが「珈琲ショパン」だ。ショ パンの名曲とコーヒーのふくよかな香り が混じり合う空間で、読書したり、おしゃべ りをしたり、思い思いの時間を過ごす人々。 80年以上の間ずっと神田人の憩いの場

として、変わらない時を 刻んでいる喫茶店なのだ。

記事はこちら →





街を散策する際の良きお供に。

街情報サイト『ちくわ。』、神田の情報もご覧いただけます。

充実の書店、最新のスポーツギアのお店、カレー屋さん、だけではありません。知られざる名 店の一押しグルメ、古き良き昭和が生きている老舗カフェ、新進気鋭・気さくな人柄の店主。 神田エリアに広がる街々を横断すれば、その楽しみの数は、それこそ山ほど。

そのひとつひとつをお伝えする、神田の地区の輪『ちくわ。』です。



https://chiku-wa.jp